

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 春の日
(ユニット名)	・なのはな・チューリップ
所在地 (県・市町村名)	千葉県千葉市緑区誉田町1-794-17
記入者名 (管理者)	大星 圭一
記入日	平成 20年 11月 22日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>・プライバシーの保護、尊重、尊厳、安心等を基本とした理念の中で、地域の方たちとふれあいながら生活することで、満足や安心を感じていただき、ゆとりある生活を送っていただきたい。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>・ゆとりある生活を送っていただく為に日々職員は考えながら対応をしている。困ったことがあった場合は業務ミーティング等で話し合い、実践の場で役立てている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>・ご家族の方々が面会等に來られた際にはよくお話をさせて頂いている。</p>	<p>○</p> <p>・ホーム便りの発行が現状まだ出来ていない為、発行できる準備を整えご家族や地域の方々にご理解を求められる体制をつくる。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>・管理者及び職員一同は気軽に近隣の方々とも挨拶やお話をさせて頂いている。最近では近隣の方々からお花をもってきていただいたりすることもある。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>・町内会行事の夏祭り、敬老会、子供会との交流会など積極的に参加している。</p>	<p>○</p> <p>・今後、自治会等の活動(ゴミ拾い、夜間警備等)にも積極的に参加していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・突発的に地域の方から相談等は度々ある。	○	・地域の老人会等に参加させていただき、近隣高齢者の実態の把握をすることにより、相談窓口として少しでも貢献していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・運営者、管理者は意義を理解しているが、職員全体には理解している者、そうでない者のバラつきがある。	○	・自己評価、外部評価を実施する意義を全体ミーティングで今一度周知し、改善すべき点は全体で積極的に取り組む。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・実施できていない状況である。	○	・毎月行われている行事の中で運営推進会議が出来ないか検討し、まずは実施に向けた準備をしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当区域内の社会援護課、介護保険課、障害福祉課とは毎月顔を合わす機会がある為、何かと相談にのっていただいている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・現状、必要とされそうとしている方々にはご家族、市の担当職員とも相談は出来ている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	・定期的に勉強会を設け、職員間共通認識を持っていただける様にしている。 ・千葉市主催の身体拘束、高齢者虐待の研修会に順次職員も参加し知識を高めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・実施できている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・意見、不満、苦情、相談等は個々に聞くことはできていると思われるが、外部へ表す機会としてはまだ設けられていない。</p>	<p>○</p> <p>・第3者的に介護相談員の導入により、意見等を外部に表せることのできる場を作り、運営に反映させる。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・定期的な報告は行っている。特に体調不良時などは個々に連絡をとりご家族との連携を図っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・何かあった際の苦情、相談、解決窓口を事業所、地域の民生委員、行政と設置はしてある。</p>	<p>○</p> <p>・運営に反映させる為、運営推進会議を定期的に開催する。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・業務ミーティング等で意見を聞き、改善等できる所は改善に努めている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・各入居者様に対し、担当スタッフをつけて利用者、ご家族からの要望、柔軟な対応を早急にとれるよう、努めている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・現在1名の離職者が出ましたが、その際は事前に周りの方々へ話しをしていたということもあり、動揺等はなくダメージを少なくすることができた。</p>	<p>○</p> <p>・職員一人一人も生活環境の一部ということを職員にしっかり理解していただき、離職を最小限にする努力をする。 ・職員の働きやすい環境作りも常に考え、透明性のある職場作りを目指す。 ・離職者が出た場合は家族と協力して、入居者にダメージがない配慮を心掛ける。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・定期的に外部研修への参加を促している。</p> <p>・月1のミーティングの中でも、研修計画をたてた職員研修を実施している。</p>	○	<p>・月一回のミーティングでは中々身のある会議ができないのも現状であり、シフト上の調整、職員の協力を得てケースカンファレンスのできる場を作りたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・グループホーム連絡会等に参加させて頂いていることで、交流の場は設けられている。</p>	○	<p>・近隣グループホームとの職員の交換研修を実施したい。実施することにより、交流、職員のスキルアップを図る。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・職員一人一人の個人面談による話し合い、職員全体による交流の場としての御食事会、勤務時間内に休息のとれる休憩室を設け、ストレスの軽減に努めている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・縦割り社会のような所はなく、職場は管理者が作るのではなく現場の職員が作るものとしている為、職員の個性、経験による実践を出せる場でもあるので経験豊富者、そうでない者、創意工夫して働いていただいている。</p>	○	<p>・勤務状況により、手当の幅を広くしていきたい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・利用に至るまでに見学、訪問、アセスメントと何度も顔を合わせる機会を多く設けている。</p>	○	<p>・体験入居という形である程度時間をかけた見方ができるともつとご本人、ご家族の方の不安が解消できるのでは。と思うが現状厳しい所がある。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・相談時にご利用者、ご家族様、施設関係者の三者関係の重要性をご説明させていただき、ご家族の方も遠慮なく悩み、不安事を相談できる関係を築いている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・現時点は無い状況である。	○	・もし、相談のあった際には本人、ご家族のニーズをしっかりと把握した上で、相談、助言をしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居に関しては、見学、体験等をまず促し、場の雰囲気を感じていただき、十分な検討をしていただいてから入居していただいている。職員間でも入居相談依頼があった際、カンファレンスを開き、安心して入居できる体制をつくっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員には、常に逆の立場を考え、自分がされて嫌なことはしないということを認識し、職員も生活環境の一部なんだということをしっかりと把握していただいた上で尊重、尊厳を重視した関係作りを築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には利用前に、施設職員、本人、家族とのネットワークをしっかりと作っていきましょうということをご説明しており、ご家族には極力面会に来ていただき、関わりを断ち切らないようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・施設側も本人、ご家族からの意見、相談、助言に努め、関係に入りすぎず、入らなすぎずといったパイプ役に徹底し、よい関係を築き、維持できるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族の方々以外の面会、友人等との外出も自由に行っている。	○	・施設側もどこまでの関係なのか把握する必要があるのかわからないのかを十分に検討しなければならない。(プライバシーの保護)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・入居者を孤立させない様、極力広間に集まっていただき、関わり、交流を持っていただけるよう支援している。職員も入居者さん同士の関係を十分把握した上で、パイプ役となり、関わりを提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・退去支援を中心とした相談が多い為、居宅、施設とそれの方にとって一番良い環境を選べられるよう、相談、助言をさせて頂いている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入居者1人1人に担当職員を付け、信頼関係を築くことにより本人の意向、希望を抽出しその人らしい生活を送れるよう努力をしている。 ・定期的にカンファレンスを行い、全体でその人の意向を把握するように努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・現状、入居前に行われたアセスメントが中心で補足として、ご家族からの情報を把握させていただいている状況である。	○ ・センター方式を活用し、もっと奥深い所までの情報を把握できるようにしたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・毎月定例でのミーティング、カンファレンスで職員全体での共有は出来ている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・ケアプラン作成前には、ご家族、職員とも何度も話し合いを設け、あくまでもご本人の意向を中心としたその人らしい生活課題を反映するようにしている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・3ヶ月に1度の評価は出来ている。	○ ・ご家族、関係者を含めたサービス担当者会議をもっと増やす。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の個別記録に関しては、様子、結果細かに記載されており、全体で共有できるものになっている。 ・看護師による看護記録も記載していただいております、入居者の健康管理にも努めている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・記録物が多くなってきて重複したものが増えてきているので、少しずつ簡素化できるようにしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現状、要望に関しては施設一丸となり、柔軟な対応をとっている。(通院介助、公的手続き、ドライブ等) 		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現状、協働できていない。 		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な方に関して、自費での福祉用具レンタルを使用している。 		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、協働できていない。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を中心に、協働していけるよう働きかける。
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設側として提携している医療機関はあるが、基本的には本人、ご家族の希望するかかりつけ医に受診していただき、納得のいく適切な医療をうけていただいている。 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>・入居者の中でかかりつけ医として、認知症専門医を受診している方がいらっしゃるので、定期受診の際に相談等をさせて頂いている。・</p>	<p>○</p> <p>・まだ何名かは認知症専門医を受診していない方がいるので、早々と受診する。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>・看護職員には服薬管理、体調管理、病院受診と入居者の健康管理の支援をいただいている。 ・何名かの方々は24時間オンコール体制で訪問看護の看護師による、健康管理をして頂いている。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>・入院時以降もご家族との連絡、お見舞いに定期的に行き、主治医との情報交換を行った上で、退院時もスムーズに受け入れが出来るようにしている。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・入居時に本人、家族、医療機関、施設と十分に話し合い、ケア方針を共有しながら関わっている。状態が不安定になってきた時には改めて意思確認の場を設け話し合っている。</p>	<p>○</p> <p>・施設として、看取りマニュアル、重度化、看取りに対する指針を再度構築し、入居者、家族、スタッフと安心して関わりの出来るようにする。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>・現在2名のターミナル期の方を受け入れていますが、医療面に関しては24時間オンコール体制で連携がとれている。生活面に関しては、その日その日で出来ること、出来ないことを見極め支援している。</p>	<p>○</p> <p>・医師、ご家族を含めて今後の変化に備えた準備、対応策を検討していきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>・関係者間で密な連絡調整を行い、スムーズに移行できるよう支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の方々に対して、人生の先輩という認識をもって関わっていただいている為、言葉掛けには十分注意している。 ・個人情報も職員には外では口外しない、外へ持ち出さないということを徹底し、カギの閉まる所へ保管している。 	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員には、わかりやすい説明、あくまでも自己決定を尊重して、お断りや、否定することのない様になっている。 	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・何事も決定権は入居者ということで、何をするにも確認することを職員全体で意識統一している。 	○ ・「その人らしい生活とはどのようにしたら実現できるのか」を全体で良く話し合い、少しでも希望にそった暮らしが出来る様支援していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問理美容を活用している。衣服類に関しては必要のある方には定期的に職員と買い物に行き、好みの物を購入してきている。 	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・当施設は賄いを採用していることから、一人一人の好み、嫌いな物等十分把握した上で、出来る限りご希望にこたえられる様、力をいれている。(カロリー制限のある方にも配慮させていただいています) 	○ ・食事が楽しくなるような雰囲気を出すために、職員も一緒に食事が摂れるようなシフト、業務分担を作っていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・たばこに関しては、所定の場所で行ってもらっている。 ・お酒等は飲用される方が現在はいない。 	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間帯不安がある為、リハビリパンツ、オムツを使用されている方が多い。 ・日中帯は普通の下着を着けている方も多く、パット1枚でも少なく出来る様支援している。(その為かぶれ、発疹も少なくなった) 		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に話し合いで入浴日を決定している。その為、毎日の方や一日おき、二日おきの方もいる。 ・どのような状態の方でも浴槽にしっかりつかることが出来るよう、支援している。 		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の休息、睡眠パターンを把握し、生活リズムが変わらない様、配慮している。 		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・役割、楽しみを感じてきた方々は少しずつ出てきたと思われる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会議で「その人らしい生活」とはということで十分な議論をかさね、その中で1人1人の生活歴も踏まえた形で役割、楽しみを見出したい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの方々が施設管理となっており、必要の際職員同行の元、ご自分で現金を払っていただいたりしている。 ・銀行、郵便局で現金の入金、振込み、出し入れもしていただく。 		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・その日の希望にそって、通院、買い物、散歩、ドライブ等を行っている。(役所関係にも一緒に外出) 		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所としては、毎月外出支援を行っている。 ・ご家族の方々と外出、外泊をされる方も多々いる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所として、福祉車両をそろえることもあり、今後、入居者全員で日帰り旅行等の計画を立てる予定。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・入居者の大半が個人の電話は持っていない為、必要のある方は事務所の電話を使用して頂いている。家族からの電話でも取次ぎしています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会時間は設定させていただいているが、その間であればいつでも自由に訪問できる。あえて面会室等の設置がない為、居室、広間と、どこでも使用できるようになっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・高齢者虐待、身体拘束に関する研修を定期的に行っている。 ・県主催の研修等にも積極的に参加をしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・カギをかけることの弊害を研修等でも多々実施している為、理解されていると思われる。 ・各居室内カギの設置が元々ない為、職員もその旨を理解された上で関わっていただいている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・特に夜間時、各自室内で就寝中、トイレ等で起きられた際に転倒のリスクが高い為、そういう方にはセンサーマットを活用させていただき、職員もすぐに気づき安全に対応がとれる。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・個人の物品等に関して、これは危険な物かな？と思われる物に対してはご本人、ご家族から了承を得てから管理するようにしている。 ・喫煙者には火災防止の為、ライター等を事務所で管理させて頂いている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・一人一人に対する、事故防止対策の会議を定期的に行い、その際にご家族への協力も必要な場合は一緒に改善へと結びつけている。	○	・職員にはいつ何が起きてもおかしくないという認識をしっかり持っていただく為ヒヤリ・ハット報告を定着させたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>・急変時、事故発生時に対する対応はスタッフ全体把握している。</p>	○	<p>・全員に応急手当等の研修に参加していただき、いざ何かあったときでも慌てずに対応がとれるようにしたい。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・年2回の消防訓練、ミーティング等で自主災害対策はできている。たまに消防署の方々からのご指導のもと研修させて頂いている。</p>		
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>・個々に対する今後おこり得ることに関して、定期的にご家族等とお話し合いは出来ている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>・その日、その時の異変、変化については記録にしっかり記載することとなっている。緊急時対応はツールをもとに管理者、医師の指示を仰ぎ早期発見、早期対応に努めている。</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>・服薬に関しては、看護師が週1回個々に分包し、間違いがない様になっている。用法や用量についても全員が見れる所にまとめてあり、いつでも確認ができるようになっている。薬の副作用、症状の変化についても定期的に研修をしている。</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>・大半の方が下剤を服用されている為できるだけ排便チェックを行い、その中でも確認できなかった方には医師等に相談している。 ・水分を多めに摂っていただくようこまめに声掛けをしている。</p>	○	<p>・食材の中で野菜類が少なめな感じがする為、業社の方と相談し、少しでも豊富に提供できるようにしたい。</p>
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>・入居者全員の方に口腔ケアの実施を行っている。その際に、ただ洗うのではなく口の中の残物、腫れ、傷等もしっかりチェックし、何かあった際には協力医療機関に相談するようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量、水分量、その日食べた物に関しては毎日記録している。その中で状態の悪い方等の早期発見に努め、医師、訪問看護師へ報告、相談をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染症に関する研修を業務ミーティングの中でやっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・台所、調理器、食器類はその都度消毒を行っている。 ・万々に備えて2週間分の検食をしている。 ・厚生労働省からの衛生管理マニュアルを参考に定期的にミーティングを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・未だに看板等の設置が出来ていない為、来所の際には分かりにくい所があると思われる。 ・駐車スペースは広々ある為、出入りに不便さはない。	○	・玄関の入り口付近に花や緑を豊富に設置したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・各共用スペースも広々しており、トイレ、浴室に関しては1日1回清掃、消毒を行い、次に使用される方も不快なく利用できます。 ・廊下も車椅子同士余裕ですれ違うこともでき、歩行訓練としても活用しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・各居室も7.5畳のスペースもあり、ご家族、利用者同士も余裕をもって過ごせるスペースはある。 ・長い廊下の中に畳イスを用意し、利用者同士談笑出来るスペースがある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・電気、エアコン、テレビ端子は標準装備でそれ以外の物に関しては、使い慣れた物や、好みの物を用意していただき、使用している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・室温は24度～25度に設定を保ち、過ごしやすい状態にしている。・加湿器を用意し、カゼの予防に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・共有スペース(廊下、浴室、トイレ)には手すり等の設置もしており、自立した生活を送れるようにはなっていると思われる。 ・各自室内の環境に対して、必要とされる方々には福祉用具の活用も勧め生活環境を整えている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・出来る所は自分でしていただけるような援助、助言をしていき、出来る喜びを感じていただいている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物裏に畑を作り、自家栽培をしたり、洗濯物を職員と干したり、清掃を職員と一緒にしたりと活用している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)